

備前市事務事業評価表

事務事業名	行政評価システム導入事業		コード	企画課 行政改革班
			06-01-01-02	担当者 中野新吾
事業実施期間	平成13年度～		電話	64-1872
総合計画 事業（政策）体系	大項目	健全で自立したまちづくり		
	中項目	簡素で効率的な行政運営		
	小項目	行政運営改革		
	施策	組織・機構の見直し/行政評価		

事業について	
目的	市民本位の効率的で質の高い行政運営(断続的な改革・改善)を推進する。 仕事の成果やコスト情報を積極的に情報発信し、透明性を高める。 各職員が自分の仕事を客観的に評価し改善を加えることで、職員の意識改革を図る。
対象 (誰のために)	施策及び事務事業並びにその対象となる市民等
内容	職員が担当した事務について、妥当性・効率性・有効性等の観点から客観的に評価し、洗い出した問題点の改善を行う。さらに所属長による施策評価を行い、事務の重要度・優先度の判定をし、予算に反映させ、より効率的で有効性の高い市民サービスの提供を行う。

事業の結果				
実施項目	17年度			
	回数など	(単位)	回数など	(単位)
事務事業評価	360	事業		
施策評価	75	施策		
行政評価システム研究会開催	2	回		
職員研修会	3	回		
ヘルプデスク	4	日		

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	2,360	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	8,515	受益者負担		人件費		受益者負担	
	市債			市債				
合計	10,875	一般財源等	10,875	合計	0	一般財源等	0	

必要人員	0.90	人		人
結果指標名	事務事業評価			
結果指標量	360			
単位	事業			
対前年比	—			
事業費	7,612,500	円		円
単位当たりコスト①	21,146	円		円

結果指標名	施策評価			
結果指標量	75			
単位	施策			
対前年比	—			
事業費	2,175,000	円		円
単位当たりコスト②	29,000	円		円

事業の成果			
成果指標名	施策目標達成率 (全施策を対象に可能な限り数値目標を設定)	式又は説明	数値目標達成施策数÷数値目標設定施策数×100
成果指標量	17年度 平成19年度分から出ます		
対前年比	—	#VALUE!	
到達目標値	まだ設定できません	到達目標年度	まだ設定できません

(平成17年度事業)

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等：	限られた財源・人員で市民サービスを向上・維持していくためには、市民に積極的に情報を提供し、情報の共有化を図り、市民ニーズを把握した上での施策展開が必要である。 この事業はすべてのサービスに関係することから妥当性は高く、あらゆる事務事業の改善と効果的な予算編成を実現する重要な事業に位置づけられる。
対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	
市民ニーズの妥当性	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	
効率性の評価	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	合併に伴い旧日生町・吉永町は新しく行政評価に取り組むこととなった。そのため両町分についてはモデル事業の評価にとどまり、市として全事業について取り組みなかった。 来年度から、新市事業の評価となるため、全事業評価はもちろんのこと、より効率的で精度の高い行政評価となるよう取組方法を改善する。
手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	
職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
有効性の評価	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している <input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	合併により旧市町分が一緒になったため、指標のないものが多い。 新市事業の評価が始まる来年度から取組を新たにし、数値目標を設定し、その達成を目指す。
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

総合評価	コ 合併前の旧市町の事務事業評価である。 メ 旧日生・吉永町の職員は初めての取組みであり、旧両町職員の意識啓発に重点を置いたものとなり、全事務事業の評価は行えなかった。 ト	評価区分 <A~E> C
------	--	------------------------

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	事務事業評価数	結果指標量②	施策評価数
目標値	成果指標量	施策目標達成率	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	市民意識調査を行い施策の重要度・満足度を調査する	平成18年度	施策評価の精度が向上(事業の優先順位付け)し、予算の効果的な配分につながる
効率性	新市総合計画の施策に沿った事務事業を設定し予算事業も一致させる	平成18年度	総合計画の進捗管理が行えるとともに、評価結果を予算に反映しやすくなる
有効性	市民意識調査で、アンケートが必要な指標について調査する	平成18年度	新たな施策の目標数値の設定ができ、行政評価システムの精度が向上する

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。